

デジタル活用シニアも

袋井市と森町協定 シルバー人材、NTTと

袋井市と森町は、袋井・森地域シルバー人材センター、NTTドコモ東海支社、NTTコミュニケーションズ東海支社と、地域におけるデジタル活用推進に向けたパートナーシップ協定を結んだ。市役所で締結式があり、袋井市の永田進理事長らが協定書を取り交わした。

協定締結は情報通信技術(ICT)を利用できる人

とできない人の情報格差(デジタルデバイド)の解消と、シルバーの職域拡大を狙い。

具体的には官民連携によりシニア世代の講師を養成し、同世代を対象としたスマートフォン講座を十一月、十二月に両市町で開く。身近な場所で同世代からスマホの使い方を学ぶことで、日常生活や地域活動での積極的な活用を目指す。

シルバー人材センターではスマホ講座開催に向け、両市町に住む六十歳以上の

講師・運営スタッフの育成に努めている。現在十三人が養成講座を受講し、全員が会員登録している。NTTドコモなどは技術支援協力を行う。

締結式では、大場市長が代表して協定書に署名し、「デジタルの進展で生活が大きく変わってきた。社会の変化の中で官民、地域が協力し、デジタルデバイスで解消に努めていきたい」と話した。

シルバー人材センターは二十日までスマホ講座(全六回)の参加者を募集中。会場は袋井地区がシルバーワークプラザ、浅羽地区がメロップラザ、森町地区が

町民生活センター。定員は各十六人で応募者多数の場合は抽選。受講無料。①シルバー人材センター0538(43)1314

(土屋祐二)



デジタル活用推進に向けたパートナーシップ協定を締結した大場規之市長(中央)ら関係者。袋井市役所で